

船舶事故調査報告書

平成23年10月6日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 石 川 敏 行

事故種類	乗揚
発生日時	平成23年6月2日（木） 10時12分ごろ
発生場所	愛知県西尾市佐久島北西方沖 西尾市所在の波ヶ埼灯台から真方位015°500m付近 （概位 北緯34°43.9′ 東経137°01.9′）
事故調査の経過	平成23年6月8日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	モーターボート ^{モフ サンクス} F. THANKS、16トン 235-32548愛知、株式会社松岡旅館 11.72m (Lr) × 4.92m × 2.42m、FRP ディーゼル機関2基、654.6kW（合計）、平成3年10月
乗組員等に関する情報	船長 男性 68歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成4年2月10日 免許証交付日 平成18年12月8日 （平成24年2月9日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	プロペラ曲損及び欠損
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者8人を乗せ、佐久島北西方沖において、雨により視界が制限された状況下、速力約8～9ノットで手動操舵により東進した。 船長は、同乗者に佐久島を案内しようと思い、同乗者と会話をしながら右舷船首方に佐久島を視認して徐々に接近中、GPSプロッターの水深計が約2.4mを表示しているのに気付いた直後、平成23年6月2日10時12分ごろ、船底に衝撃を感じた。 船長は、直ちに機関を中立として漂泊し、愛知県高浜市所在のマリーナ及び海上保安庁に通報した。 本船は、近くにいた漁船によって引き出され、同漁船の乗組員により船底の損傷状況が確認され、自力でマリーナに帰航した。
気象・海象	気象：天気 雨、風向 南東、風力 3、視程 約300～500m 海象：波高 約1m、潮汐 下げ潮の末期
その他の事項	船長は、本件発生場所付近を何度も航行しており、浅所があって本船が乗り揚げた浅所を含め、目印となるブイが存在していることを知っていた。 船長は、佐久島に接近する際、同乗者との会話に気を取られ、ブイを確認したりGPSプロッターを活用したりして船位を確認しなかった。

分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし あり 本船は、雨により視界が制限された状況下、佐久島北西方沖を同島に接近しながら東進中、船長が、同乗者との会話に気を取られ、ブイを確認したりGPSプロッターを活用したりして船位を確認しなかったことから、浅所に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、雨により視界が制限された状況下、本船が、佐久島北西方沖を同島に接近しながら東進中、船長が、同乗者との会話に気を取られ、船位を確認しなかったため、浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。	